

周南と、下松と、光と、みなと。

港は宝

徳山下松港

100th anniversary

徳山下松港 開港 100 周年



徳山下松港開港100周年記念事業実行委員会



徳山下松港開港 100 周年記念事業実行委員会

会長 藤井 律子

徳山下松港は、大正 11 年 2 月 10 日に特別輸出入港の指定を受け徳山港として開港し、昭和 23 年に下松港が編入され徳山下松港として開港し、昭和 41 年に光港が編入され、令和 4 年に開港 100 周年を迎えました。

昭和 26 年の重要港湾指定、昭和 40 年の特定重要港湾指定を経て、平成 23 年には国際拠点港湾に位置付けられ、国際バルク戦略港湾に選定されるなど、国際海上輸送の拠点として日本を代表する港湾へと発展を遂げています。

開港から 100 年という長い歴史の中で、多くの企業が周南地域に進出し、化学工業品やセメント、鋼材など国民生活に必要な基礎素材をはじめ、鉄道や船舶、医薬品など幅広い品目の製造業が集積した工業地域が形成されるとともに地域の雇用が生まれ、周南地域の発展にも寄与してきました。

多くの企業進出は、徳山下松港が島々に囲まれ静穏で水深があり、原料や製品の輸出入に適した「天然の良港」であったからであり、私たちの仕事や暮らしを支え、守り続けている徳山下松港は、周南地域の大切な財産です。

開港 100 周年という記念すべき節目を迎えるにあたり、徳山下松港の開港やその後の発展にご尽力いただいた先人や港に関わるすべての皆様に感謝するとともに、周南地域の今後のさらなる活性化に向けて、企業や地域の皆様と一緒に取り組んでまいりたいと考えています。

また、次の時代を担う若い皆さんに、徳山下松港開港 100 周年記念事業等を通じて港や海に触れ、周南地域の企業の力等を感じることで、徳山下松港や周南地域に愛着と誇りを持ち、将来、この周南の地で活躍されることを期待しています。

私たちの仕事や暮らし、周南地域の発展を支えてきた徳山下松港を大切に思う気持ちを育みながら、今後も徳山下松港及び周南地域が持続的に発展していくことを祈念いたします。

令和 4 (2022) 年 7 月 18 日



【写真提供】山口県港湾課

目 次

はじめに（港は宝とは）	· · · · · P 3
徳山下松港の概要	· · · · · P 4
徳山下松港のあゆみ	· · · · · P 7
徳山下松港の整備・機能強化	· · · · · P 21
徳山下松港のこれから	· · · · · P 31
参考資料	· · · · · P 34

※資料の出典については、図書名のほか、山口県文書館蔵の資料をA、周南市美術博物館提供の資料をB、周南市提供の資料をCと表記する。

はじめに（港は宝とは）

日本は、輸入した原料などを加工・製造して製品を輸出する貿易立国として発展してきました。しかし、国内の資源やエネルギーが乏しいため、ほぼ全てを海外からの輸入に依存しています。

輸入に際しては、日本が四方を海に囲まれた島国であることから、世界各地からの輸入品の大部分が船舶によりコンテナやバルク（ばら積み）貨物として日本各地の港へと海上輸送されています。

このような日本にとって、港湾設備の戦略的な整備（大型船舶に対応できる大水深桟橋・岸壁、それらに対応できる荷役・保管・国内2次輸送能力等の港湾機能全体の充実）は、大型船舶による安定的かつ安価な資源・エネルギーの確保（輸入）に直結し、国内に立地する日本企業の国際競争力の強化、それらが立地する都市の雇用の維持や創出に極めて重要なものです。

周南地域では、100年以上前から、素材・ものづくり企業が進出して来ましたが、その一番の要因は、港が島々に囲まれ静穏であるとともに水深があり、東アジア諸国に近距離であること等、まさに、「天然の良港」を有する地域であったことにあります。

この「天然の良港」に様々な企業が進出し、関連企業や取引企業等を含め地域の雇用を創出したことで、周南地域に活気があふれ、文化・スポーツ、教育、福祉なども充実し、県内でも有数の経済都市として発展してきたのです。

また、徳山下松港は工業港でありながら、新南陽地区から光地区までの港湾区域内に下松市の風光明媚な笠戸湾、光市の日本有数の渚である虹ヶ浜など、美しい自然景観を併せ持っております。全国にも誇れるすばらしい「宝」です。

周南地域に住む私たちにとっては、いつも当たり前のように存在し、接している港ですが、先人の様々な歴史や港の役割・重要性などを理解し、周南地域の大切な財産である徳山下松港を次の世代へと引き継いでいくことが大切なのです。



はたらく港は、私たちの仕事や暮らしを支える宝物。

徳山下松港の概要

周南地域発展の礎「徳山下松港」

徳山下松港は、山口県の瀬戸内海沿岸のほぼ中央に位置し、周南市、下松市、光市の3市にわたる広い港湾区域（全国5位）を持つ自然条件に恵まれた良港として、古くから利用されてきました。

また、瀬戸内海西端に位置し、関門海峡や豊後水道を経て外洋に通じており、アジア地域諸国との貿易において有利であるとともに、高速道路や鉄道など陸上交通との結節点として高い利便性を誇ります。特に、大型貨物船舶が豊後水道から直線的に入港でき、高い航行安全性が確保されるという優れた地理的特徴を有しています。

近年では、その背後に形成された石油コンビナートをはじめとする臨海工業地帯を支える工業港として重要な役割を果たしており、昭和26(1951)年に重要港湾に、また昭和40(1965)年には特定重要港湾（平成23(2011)年より国際拠点港湾）の指定を受けています。

徳山下松港の背後には、石油化学工業を中心とする周南コンビナートの化学工業品や鋼材等の国民生活に必要な基礎素材、最先端の電子機器などの素材として世界で必要とされる特殊品、そして、鉄道車両、船舶、医薬品など、日本を代表する高品質なものづくり拠点が形成されています。

特に、周南コンビナートは、全国でも有数の複合化学コンビナートで、有力なエチレンセンターであり、有機化学と無機化学が融合したコンビナートとして、多種多彩な化学製品を生み出しています。

また、世界に広く賦存している石炭による自家発電所において、蒸気をエネルギーとして併用しながら、LNGの発電効率に匹敵するエネルギー効率を実現し、安価で安定的、かつ、効率的な電力システムを整えて、国際競争力を保っていることなどが大きな特徴です。

周南地域（周南市、下松市、光市）は、山口県の製造品出荷額等の3分の1を占め、山口県経済を牽引しており、周南地域で生産される多種多彩かつ先端的な基礎素材製品等は世界的なシェアを占めるとともに、その用途は多方面にわたり、我が国における「モノづくり産業」の一翼を大きく担う一大供給拠点であり、日本経済の発展にも貢献しています。

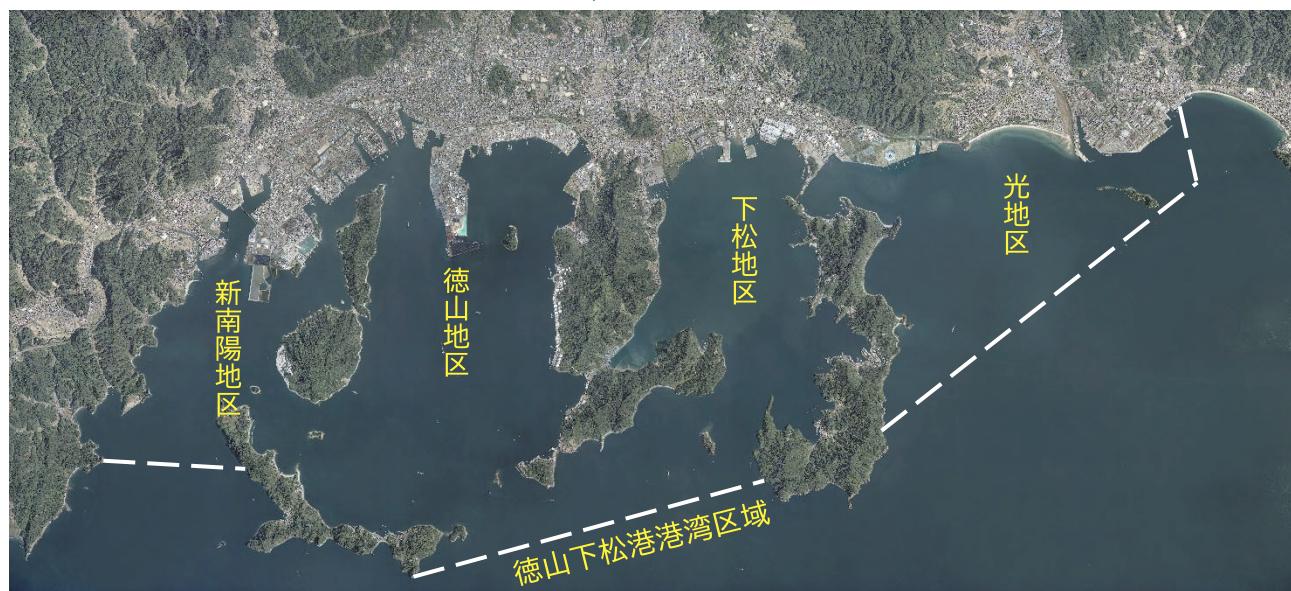
こうした経済活動を支えるベースインフラが、「徳山下松港」なのです。

徳山下松港の位置づけ

徳山下松港は、国際海上輸送網の拠点として特に重要として政令により定められた「国際拠点港湾」となっています。山口県内では、徳山下松港と下関港が国際拠点港湾に指定されており、日本全国では18港が指定されています。



【出典】山口県 徳山下松港長期構想 (H25.12)



【写真提供】国土交通省中国地方整備局宇部港湾・空港整備事務所

国際戦略港湾

長距離の国際海上コンテナ運送に係る国際海上貨物輸送網の拠点となり、かつ、当該国際海上貨物輸送網と国内海上貨物輸送網とを結節する機能が高い港湾であって、その国際競争力の強化を重点的に図ることが必要な港湾（全国5港、東京港、横浜港、川崎港、大阪港、神戸港）。

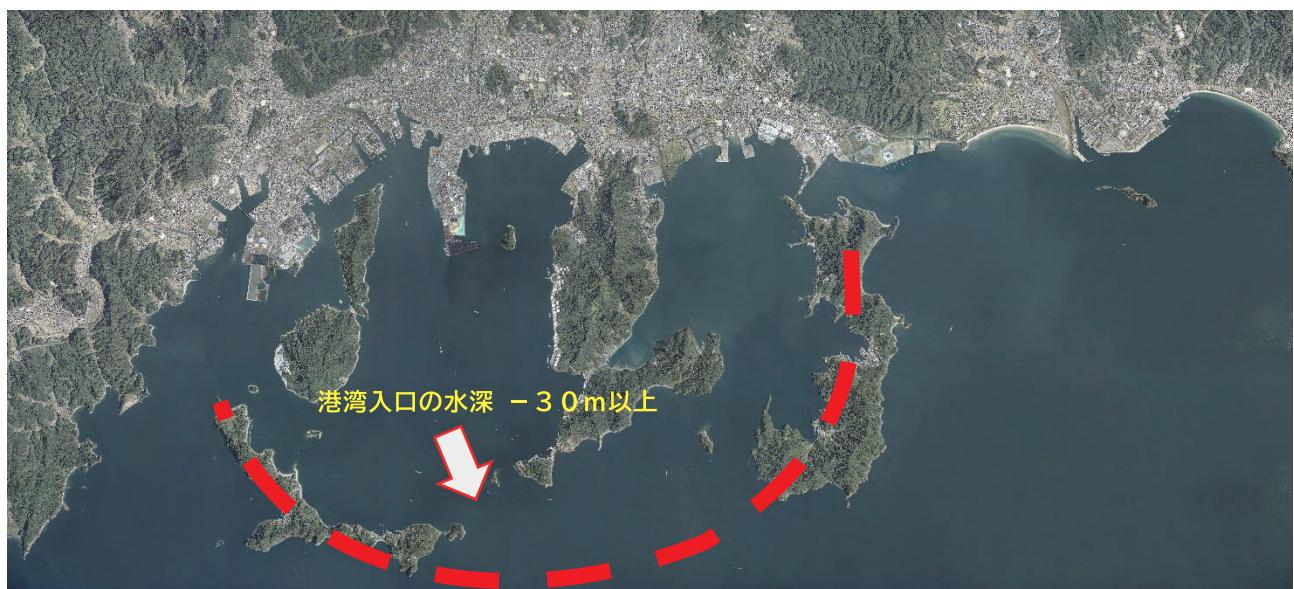
重要港湾

海上輸送網の拠点となる港湾、その他の国の利害に重大な関係を有する港湾（全国102港、山口県では岩国港、三田尻中関港、宇部港、小野田港）。

徳山下松港の地理的特徴（優位性）

徳山下松港が「天然の良港」と言われる理由の一つには、島々に囲まれた静穏な港であることや湾内入口の水深が-30m以上あること、太平洋から徳山下松港まで直線的に入港できることなどの地理的特徴が挙げられます。

こうした地理的特徴は、大型船舶（貨物船）が入港する際の航行安全性が高いことを意味しており、ハブとしての機能が高い港となっています。



【写真提供】国土交通省中国地方整備局宇部港湾・空港整備事務所



【写真】国土地理院地図データを加工